

2024. 5. 7 五感を通して世界が広がっていく

好きな遊びの時、何人かが花の周りに集まり、何やら花の蜜を吸っています。

「この花の蜜、めっちゃおいしい！」

「これツツジ？」「いや、違うよ！」「これ、ツツジよりおいしいよね！」「ちょっとみんなにも教えてくるわ！」

子供たちのつぶやきがいろいろ聞こえてきます。

教師が「これなんていう花なのかな？」とそこにいた子供たちに聞くと、「わからない！」とのこと。花の周りの人はどんどん増えていき、みんなが蜜を吸っています。

「三つ一緒に吸うとめっちゃおいしいよ！」と子供たちは大盛り上がり。

その後のみんなの時間で、その発見をみんなで共有します。モニターで映しながらこの花について調べてみると、「チェリーセージ」という名前だということが判明します。調べたサイトには、「花や葉にフルーティーなあまり香りがすのが名前の由来です」と書いてありました。「ん？葉っぱもいい匂いの？」「それは気付かんかった！」とさっそくみんなで葉っぱを見に行きます。すると、葉っぱもいい匂い。「ミントのにおいと似てるね！」「これハーブだよ！」近くにミントやローズマリーも植えてあるので、その匂いと比べています。

すると、「ねえ！こっちのお花もいい匂いだよ！」と一人の女の子が叫んでいます。シャクシャクの花がちょうど咲いています。男の子は「これはちみつみたいな匂いがするよ！」とシャクシャクの花の匂いを嗅いで感動しています。とっても甘い匂いでした。他の男の子はシャクシャクの花の中をしげしげとみて、「なんか真ん中に4つのツンツンしたのがあるよ」と言っていました。めしべ、おしべがここでもつながっているのでしょうか。

別の場所では、女の子が「違う匂いがする葉っぱを見つけたよ！」と嬉しそうに教師に持ってきました。

それはシソの葉でした。去年のこぼれ種でシソの葉が出はじめています。小さい葉ですが、その匂いを嗅いで「ゆかりのにおいがする！」「ゆかりちゃんだ！」とさらに盛り上がってきます。そして、シソの葉を摘むと、大事に袋にいれて「おうちに持って帰ろう！」とカバンにそっと入れていました。

日々の植物に対する子供たちの何気ない気付きや感動が、教師とともに植物という世界を探索していくことでつながり、ストーリーのようになっていくようにも感じます。そこには一人一人の文脈があり、それが重なりあったり、混じり合ったりしているからこそ、コミュニティとしての高まりにつながり、より深くなっていくようにも思えます。

よく見ると、自分たち身の回りにはいろいろな植物があること、それを五感を通して知っていくことで、より子供たちにとっての「世界」がひらかれていくのかもしれません。

